



ゲートウェイの設定

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。Cisco Unified Communications Manager は、複数のタイプのゲートウェイをサポートしています（『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』を参照）。

Cisco Unified Communications Manager を使用した Cisco ゲートウェイの処理と設定については、次のトピックを参照してください。

- 「ゲートウェイの設定値」 (P.66-1)
 - 「MGCP ゲートウェイの設定値」 (P.66-3)
 - 「H.323 ゲートウェイの設定値」 (P.66-5)
 - 「Analog Access ゲートウェイの設定値」 (P.66-24)
 - 「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」 (P.66-29)
 - 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」 (P.66-30)
- 「ポートの設定値」 (P.66-32)
 - 「FXS/FXO ポートの設定値」 (P.66-32)
 - 「デジタルアクセス PRI ポートの設定値」 (P.66-39)
 - 「デジタルアクセス T1 ポートの設定値」 (P.66-58)
 - 「BRI ポートの設定値」 (P.66-64)
 - 「POTS ポートの設定値」 (P.66-75)
 - 「ループ スタート ポートの設定値」 (P.66-77)
 - 「グラウンドスタート ポートの設定値」 (P.66-78)
 - 「E & M ポートの設定値」 (P.66-79)
- 「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加」 (P.66-81)
- 「ゲートウェイとポートの変更」 (P.66-93)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager 音声ゲートウェイの概要」

ゲートウェイの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] メニュー パスを使用して、ゲートウェイを設定します。

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified Communications ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明は、次のトピックを参照してください。

- 「MGCP ゲートウェイの設定値」(P.66-3)
- 「H.323 ゲートウェイの設定値」(P.66-5)
- 「Analog Access ゲートウェイの設定値」(P.66-24)
- 「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」(P.66-29)
- 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」(P.66-30)

ポートの設定値の詳細については、「ポートの設定値」(P.66-32) を参照してください。

ゲートウェイの設定のヒント

ゲートウェイを追加する方法については、「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加」(P.66-81) および対応するサブトピックを参照してください。

ゲートウェイのリセットのヒント

ゲートウェイをリセットする方法については、「共通ボタンおよびアイコン」(P.1-19) の [選択項目のリセット (Reset Selected)] ボタンおよび [リセット (Reset)] ボタンの説明を参照してください。



(注)

H.323 ゲートウェイの再起動やリセットは、ゲートウェイをハードウェア的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco Unified Communications Manager によってロードされた設定を初期化するだけです。H.323 以外のタイプのゲートウェイをリセットすると、Cisco Unified Communications Manager が、そのゲートウェイを使用しているコールを自動的に終了します。H.323 以外のタイプのゲートウェイを再起動すると、Cisco Unified Communications Manager が、そのゲートウェイを使用しているコールを保持しようとします。

次のトピックも参照できます。

- 「ゲートウェイの同期化」(P.66-94)

ゲートウェイの削除のヒント

ゲートウェイとポートは、パーティション、デバイス プール、電話番号など、さまざまな設定情報を使用します。ゲートウェイやポートを更新または削除する場合は、[依存関係レコード (Dependency Records)] リンクを使用すると、事前にゲートウェイやポートに関する設定情報を検索できます。リンクにアクセスするには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。このリンクの詳細については、付録「依存関係レコード」を参照してください。

ルート グループで使用されているゲートウェイを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager からメッセージが表示されます。ゲートウェイを使用しているルート グループを検索するには、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「依存関係レコードへのアクセス」(P.A-2) を参照してください。現在使用されているゲートウェイを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループすべてに、別のゲートウェイを割り当てます。「ルート グループへのデバイスの追加」(P.31-4) を参照してください。
- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループを削除します。「ルート グループの削除のヒント」(P.31-2) を参照してください。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。



(注)

[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウでは、ゲートウェイ タイプごとに、[デバイスは信頼済み (Device is trusted)] または [デバイスは信頼されていない (Device is not trusted)] が、対応するアイコンとともに表示されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは、デバイス タイプに基づいて判別されます。デバイスが信頼済みであるかどうかは設定できません。

MGCP ゲートウェイの設定値

表 66-1 では、MGCP ゲートウェイの設定値について詳しく説明します。

表 66-1 MGCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[ゲートウェイの詳細 (Gateway Details)]	
[ドメイン名 (Domain Name)]	<p>CiscoMGCP ゲートウェイを識別する名前を 64 文字以内で入力します。</p> <p>Domain Name Service (DNS; ドメイン ネーム サービス) ホスト名が正しく解決されるように設定されている場合は、DNS ホスト名を使用します。それ以外の場合は、CiscoMGCP ゲートウェイ上で指定されているとおりのホスト名を使用します。</p> <p>IOS ゲートウェイ上で設定されているとおりのホスト名を使用する場合は、ここで入力する名前が、そのホスト名と正確に一致する必要があります。</p> <p>たとえば、ホスト名が <code>vg200-1</code> に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が未設定の場合は、このフィールドにはホスト名を入力します (この場合、<code>vg200-1</code>)。</p> <p>ゲートウェイ上でホスト名が <code>vg200-1</code> として設定され、IP ドメイン名が <code>cisco.com</code> として設定されている場合、このフィールドには <code>vg200-1.cisco.com</code> と入力します。</p>
[説明 (Description)]	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager になります。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco Unified Communications Manager に接続しようとします。</p>

表 66-1 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
(注) 一部の VIC で、開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC には 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) 存在する必要があります。	
(注) MGCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます (VG200 ゲートウェイには、1 つのスロットしかありません)。	
(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存(Save)] をクリックしてください。	
[Module in Slot 0] [Module in Slot 1] [Module in Slot 2] [Module in Slot 3] (以下、同様)	<p>MGCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。たとえば、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-1V] : Subunit 0 に、FXS または FXO 用の音声インターフェイス カード (VIC) を 1 つ装備。NM-1V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、2 番目の BRI ポートがシャットダウンされるため、2 つのコールを行うことができます。 • [NM-2V] : FXS または FXO 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。NM-2V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、4 つのコールを行うことができます。別の VIC が NM-2V の 2 番目のスロットにある場合、VIC-2BRI-S/T-TE の 2 番目のポートがシャットダウンします。 • [NM-HDV] : Subunit 0 に、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を 1 つ装備。 • [NM-HDA] : VIC を、Subunit 0、Subunit 1、および Subunit 2 に 1 つずつ、合計 3 つ装備。 • [VWIC-SLOT] : 次のいずれかのモジュール用のスロットを装備。VIC (FXS、FXO、または BRI)、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用のスロットを 1 つ装備。 • [AIM-VOICE-30] : T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • [WS-X6600-24FXS] : FXS ポートを 24 つ装備。 • [WS-X6600-6T1] : T1 PRI または CAS 用のポートを 6 つ装備。 • [WS-X6600-6E1] : E1 PRI 用のポートを 6 つ装備。 • [WS-SVC-CMM-MS] : ヨーロッパおよびその他の国の T1 インターフェイス用と E1 インターフェイス用に 1 つずつ、合計 2 つを装備。 • [なし(None)] : ネットワーク モジュールの装備なし。 <p>[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで Cisco 881 または Cisco 888/887/886 を MGCP 用に設定する場合は、サブユニットを設定するときに次のオプションを選択します。</p> <p>Cisco 881 の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • サブユニット 1 : VIC3-4FXS-DID • サブユニット 3 : VIC2-1FXO <p>Cisco 888/887/886 の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • サブユニット 1 : VIC3-4FXS-DID • サブユニット 2 : VIC2-1BRI

表 66-1 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

H.323 ゲートウェイの設定値**(注)**

ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に登録すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにゲートウェイ登録ステータスが不明と表示されることがあります。

表 66-2 では、H.323 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス名 (Device Name)]	デバイスを識別するために Cisco Unified Communications Manager が使用する固有の名前を入力します。IP アドレスまたはホスト名をデバイス名として使用します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、Music on Hold (MoH; 保留音)、および MLPP の設定を決定します。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オンネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイド サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オンネット (OnNet)] か、または [オフネット (OffNet)] が決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが [オンネット (OnNet)] または [オフネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソース から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p>
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>このフィールドを設定するのは、H.323 ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コールアドミSSION制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミSSION制御」を参照してください。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)]	<p>H.323 ゲートウェイを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco Unified Communications Manager から他の Annex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、[QSIG] オプションを選択します。QSIG トンネルは、Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、Message Waiting Indication、および Path Replacement の各機能をサポートします。</p> <p>(注) Annex M.1 機能とサードパーティ ベンダーとの互換性については、『Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix』を参照してください。</p>
[QSIG バリエント (QSIG Variant)]	<p>[QSIG バリエント (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、アウトバウンド QSIG ファシリティの情報要素で送信されるプロトコルプロファイルを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません--] • [ECMA] : [QSIG バリエント (QSIG Variant)] が [ECMA] (プロトコルプロファイル 0x91) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Global Value (ECMA)] に設定されていることを確認してください。 • [ISO] : (デフォルト) [QSIG バリエント (QSIG Variant)] が [ISO] (プロトコルプロファイル 0x9F) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Local Value] または [Use Global Value (ISO)] のいずれかに設定されていることを確認してください。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [QSIG バリエント (QSIG Variant)] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 22 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)]	<p>[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、Remote Operations Service Element (ROSE; 遠隔操作サービス要素) 操作に対する Invoke Object ID (OID) を符号化する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません --] • [Use Global Value (ISO)] : このオプションを選択するのは、接続先の PBX がローカル値をサポートしていない場合だけです。 • [Use Global Value (ECMA)] : このオプションを選択するのは、QSIG Variant サービス パラメータが、[ECMA] (プロトコル プロファイル 0x91) に設定されている場合だけです。 • [Use Local Value] : (デフォルト) QSIG Variant サービス パラメータが [ISO] (プロトコル プロファイル 0x9F) に設定されている場合、ほとんどのテレフォニー システムでサポートされているこのオプションを使用します。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 22 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified CM が Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレーポイント) のデバイスをこのメディア エンドポイントで挿入するかどうかについて、有効化または無効化を指定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーションポイント) またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>
[シグナリングポート (Signaling Port)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリングポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>
[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) を実装するためにメディアターミネーションポイントを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set メッセージをサポートしない H.323 デバイスだけに、このチェックボックスを使用してください。</p> <p>MTP を使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ビデオコールを音声として再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントだけに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗します。コール制御はルート/ハント リスト内でコールを再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定済みで使用可能であれば、コール制御はルート リストとハント リスト間でもコールを再ルーティングします。</p>
[ファーエンド H.245 ターミナル機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このフィールドは H.323 デバイスだけに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco Unified Communications Manager がファーエンド H.245 ターミナル機能セットを受信した後に、H.245 ターミナル機能セットに送信するように指定します。Cisco Unified Communications Manager が機能交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>(注) H.323 エンドポイントと H.320 エンドポイント間の ISDN コールに、H.320 ゲートウェイ経由のコールを可能にするには、このチェックボックスをオフにします。</p>
[パス置換サポート (Path Replacement Support)]	<p>このチェックボックスが表示されるのは、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] オプションを選択した場合です。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス置換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] で [QSIG] オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、そのデバイスの送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[SRTP を許可 (SRTP Allowed)]	<p>ゲートウェイを介したセキュア コールと非セキュア コールを Cisco Unified Communications Manager で許可する場合は、[SRTP を許可 (SRTP Allowed)] チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイとの SRTP ネゴシエーションを防止し、RTP を使用します。</p> <p> 注意 このチェックボックスをオンにする場合は、IP セキュリティを設定して、コール ネゴシエーション中に鍵や他のセキュリティ関連の情報を公開しないようにすることを強くお勧めします。IPSec を正しく設定しないと、Cisco Unified Communications Manager とゲートウェイ間のシグナリングが非セキュアになります。</p> <p>ゲートウェイの暗号化の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[H.235 パススルー使用可能(H.235 Pass Through Allowed)]	この機能を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は 2 つの H.235 エンドポイント間で、共有秘密鍵 (Diffie-Hellman 鍵) と他の H.235 データを透過的にパススルーし、2 つのエンドポイント間でセキュアなメディア チャネルを確立できます。 H.235 パススルーを許可するには、このチェックボックスをオンにします。
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	有意な数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。 収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルート パーティションの集合を指定します。 Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「 コーリングサーチ スペースの設定値 」(P.41-1) を参照)。 (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、まず、[有意な数字 (Significant Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。 国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)]	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco Unified Communications Manager サーバで [インバウンド FastStart を有効にする (Enable Inbound FastStart)] チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p>(注) 他のクラスタの Cisco Communications Manager 3.3(2) サーバをサポートパッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発呼者回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードとともにこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードとともにこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	<p>発信側と着信側のネーム デリバリー サービスに対する SETUP、CONNECT、および NOTIFY メッセージ内で、表示 IE のデリバリーを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号IE配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)]	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>(注) [アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]、および [アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を設定する必要があります。</p>
[アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスを使用して、発信 FastStart コール用に H.323 デバイスとともに使用するための、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [G711 u-law 64K] (デフォルト) • [G711 a-law 64K] • [G723] • [G729] • [G729AnnexA] • [G729AnnexB] • [G729AnnexA-AnnexB] <p>(注) [アウトバウンド FastStart を有効にする (Enable Outbound FastStart)] チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。[アウトバウンド FastStart 用コーデック (Codec For Outbound FastStart)] を選択する前に、[保存 (Save)] をクリックすることが必要になる場合があります。</p>
[着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS (Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌル パーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、H.323 の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した着信側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーションCSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーションCSS(Calling Party Transformation CSS)]を[なし(None)]に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン(Calling Party Transformation Pattern)]は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用(Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイスプールに設定されている発呼側トランスフォーメーションCSSを使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、H.323の[ゲートウェイの設定(Gateway Configuration)]ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーションCSSが使用されます。</p>
[位置情報の設定(Geolocation Configuration)]	
[位置情報(Geolocation)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、<i>未指定</i>の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム(System)] > [位置情報の設定(Geolocation Configuration)]メニューオプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ(Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし(None)>]設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム(System)] > [位置情報フィルタ(Geolocation Filter)]メニューオプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[着信発呼者の設定(Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア(Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア(Clear Prefix Settings)]をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定(Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックスフィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定(Default Prefix Settings)]をクリックします。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号(International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際(International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際(International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際(International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非スル パーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>
[着信の着呼側設定 (Incoming Called Party Settings)]	
<p>H.323 プロトコルは、国際的なエスケープ文字 + をサポートしていません。+ を含め正しいプレフィックスが H.323 ゲートウェイ経由の着信コールに適用されるようにするには、着信の着呼側設定を行います。つまり、着信の着呼側設定を行うことにより、着信コールが H.323 ゲートウェイ経由で到達したときに、Cisco Unified Communications Manager によって、着信側番号がゲートウェイ経由で最初に送信された値に変換されるようになります。</p>	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての着信側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドをブランクのままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国内 (National)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号(International Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際(International)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス(Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [国際(International)] を使用する着信側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス(Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数(Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス(Prefix)] フィールドおよび [削除桁数(Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定(Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス(Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数(Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス(Prefix)] フィールドを空白のままにするか、または [プレフィックス(Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数(Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス(Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数(Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [国際(International)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用(Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号(International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース(Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際(International)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし(None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [不明 (Unknown)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。これらのウィンドウで [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定する場合は、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [不明 (Unknown)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

表 66-2 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信の着呼側番号を変換するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する着信番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。16 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>ヒント [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信の着呼側のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <p>ヒント [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドを空白のままにするか、または [プレフィックス (Prefix)] フィールドに有効な設定を入力する必要があります。[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定するには、[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字を入力しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスの適用前に [加入者 (Subscriber)] タイプの着信側番号から除去する桁数を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 着信側番号タイプの着信側番号を変換できます。[なし (None)] を選択すると、着信の着呼側番号の変換は行われません。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

Analog Access ゲートウェイの設定値

表 66-3 では、Analog Access ゲートウェイ (Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS Gateway) の設定値について説明します。

表 66-3 Analog Access ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[MAC アドレス (MAC Address)]	<p>ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。</p> <p>12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。</p>

表 66-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (¥)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、パーティションの集合を指定します。 Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「 コーリング サーチ スペースの設定値 (P.41-1) 」を参照)。 (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション (Location)]	ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。 ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。 ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。 新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。 ロケーションの詳細については、「 ロケーションの設定 (P.15-1) 」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミSSION 制御 」を参照してください。

表 66-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。 (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[上から (Top Down)] を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> [上から (Top Down)] : ポート 1 からポート 8 まで降順にポートを選択します。 [下から (Bottom Up)] : ポート 8 からポート 1 まで昇順にポートを選択します。

表 66-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ロード情報 (Load Information)]	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	このデバイスは、デバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。 送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。 着信側デバイスは、送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。 (注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	このデバイス タイプには、この設定はありません。

表 66-3 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、<i>未指定</i>の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

Cisco VG248 ゲートウェイの設定値

表 66-4 では、Cisco VG248 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 66-4 Cisco VG248 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[MACアドレス (MAC Address、最後の10文字)]	<p>Cisco VG248 のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway 用の MAC アドレスは 1 つしかありませんが、Cisco Unified Communications Manager はすべてのデバイスについて固有の MAC アドレスを要求します。MAC アドレスの 10 桁だけを入力すると、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイ用の MAC アドレスを使用し、それに追加情報を加えて VGC 電話機用の MAC アドレスを作成することができます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号が追加され、MAC アドレスの先頭に VGC が追加されます。</p> <p>例 Cisco VG248 の MAC アドレスは 0039A44218 です。 Cisco Unified Communications Manager に登録されたポート番号 12 用の MAC アドレスは VGC0039A4421812 です。</p>
[説明 (Description)]	Cisco Unified Communications Manager は、MAC アドレスの直前に VGCGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。
[ロード情報 (Load Information)]	設定中の Cisco VG248 のファームウェア バージョンを入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
(注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存 (Save)] をクリックしてください。	
[48_PORTS]	エンドポイント ID のリストから、VGC_Phone ポートを設定するためのポートを 1 つ選択します。

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

表 66-5 では、Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値について説明します。

表 66-5 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
[MACアドレス (MAC Address、最後の 10 文字)]	<p>ゲートウェイのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。 <i>sccp local</i> IOS コマンドがゲートウェイで指定するインターフェイスの MAC アドレスを使用します。数字 (0 ~ 9) および A ~ F の大文字を指定できます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) にスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングが追加されます。</p> <p>例 ゲートウェイ用の MAC アドレスは 0006D7E5C7 です。 Cisco Unified Communications Manager の MAC アドレスは 0006D7E5C7281 です。 281 はスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングです。 2、8、および 1 の値は 16 進数字であり、スロット、サブユニット、およびポートの値に対応しているとは限りません。</p> <p>電話機のデバイス タイプを示すため、MAC アドレスの前に次の 2 文字が挿入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BR : BRI 電話機 • AN : アナログ電話機 <p>また、ゲートウェイ名に対して SKIGW も挿入されます。</p>
[説明 (Description)]	Cisco Unified Communications Manager は、MAC アドレスの直前に SKIGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。説明は上書きできます。
[Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified CM Group)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager になります。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco Unified Communications Manager に接続しようとします。</p>

[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]

- (注) 一部の VIC で、開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC には 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) 存在する必要があります。
- (注) SCCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます。
- (注) モジュールのポートの設定を開始するには、最初にモジュールを選択してから、[保存 (Save)] をクリックしてください。

表 66-5 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
[Module in Slot 0] [Module in Slot 1] [Module in Slot 2] [Module in Slot 3] (以下、同様)	<p>選択した SCCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。次のモジュールがサポートされています。</p> <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットあり) :</p> <ul style="list-style-type: none"> [NM-2V] : FXS-SCCP 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 [NM-HD-2V] : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 [NM-HD-2VE] : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットなし) :</p> <ul style="list-style-type: none"> [NM-HDA-4FXS] : VIC なしで直接 4 つの FXS を装備。最大 2 つの拡張モジュール EM-HDA-8FXS で拡張することにより、FXS ポートを 16 個サポートできます。 [EM-HDA-8FXS] : NM-HDA-4FXS の拡張モジュール。 <p>音声インターフェイス カード :</p> <ul style="list-style-type: none"> [VIC-2FXS] [VIC-4FXS] [VIC2-2FXS] [VIC2-2BRI-NT/TE]
	<p>スロット レベルでは、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [NM-2V] : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-2FXS-SCCP)。 [NM-HD-2V] : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。 [NM-HD-2VE] : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP)。 [NM-HDA] : 3 つのサブユニットのオプション (NM-HDA-4FXS-SCCP、EM-8FXS-EM0-SCCP、EM-8FXS-EM1-SCCP)。 <p>[NM-HDA] の場合、これらのオプションは正式な VIC ではありません。VIC2-2BRI-NT/TE は、SCCP を実行している BRI 電話機専用の VIC です。VG224 GW は他のすべてと異なります。</p> <p>次のオプションは、1 つのスロットだけをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [ANALOG] : 1 つのサブユニットのオプション (24FXS-SCCP)。24 個の FXS ポートをサポート。 <p>オプション [なし (None)] は、ネットワーク モジュールが装備されていないことを意味します。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

追加情報

- 「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

ポートの設定値

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細については、次の各トピックの表を参照してください。

- 「[FXS/FXO ポートの設定値](#)」(P.66-32)
- 「[デジタルアクセス PRI ポートの設定値](#)」(P.66-39)
- 「[デジタルアクセス T1 ポートの設定値](#)」(P.66-58)
- 「[BRI ポートの設定値](#)」(P.66-64)
- 「[POTS ポートの設定値](#)」(P.66-75)
- 「[ループ スタート ポートの設定値](#)」(P.66-77)
- 「[グラウンドスタート ポートの設定値](#)」(P.66-78)
- 「[E & M ポートの設定値](#)」(P.66-79)

ゲートウェイの設定値の詳細については、「[ゲートウェイの設定値](#)」(P.66-1) を参照してください。

FXS/FXO ポートの設定値

表 66-6 では、FXS/FXO ポートの設定値について詳しく説明します。

**(注)**

VG200 ゲートウェイの場合、すべてのスイッチ エミュレーション タイプが、ネットワーク側をサポートしているわけではありません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定内容によって、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 66-6 FXS/FXO ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[説明 (Description)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は、アナログ MGCP の説明を一意に識別する文字列を生成します。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>AALN/S0/SU1/1@domain.com</p> <p>このフィールドは、編集可能です。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p>

表 66-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード(Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間(Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[コーリングサーチスペース(Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された(発信)番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合から構成されます。 Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索(Find)] ボタンが表示されます。[検索(Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示(Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します(「 コーリングサーチスペースの設定値(P.41-1) 」を参照)。 (注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム(System)] > [エンタープライズパラメータ(Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] ペインで [Max List Box Items] に値を入力します。
[AAR コーリングサーチスペース(AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング(AAR)の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された(発信)番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション(Location)]	ロケーションは、コールアドミッション制御(CAC)を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CACでは、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオコールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのアベイラビリティを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。 ドロップダウンリストボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。 ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。 新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニューオプションの順に選択します。 ロケーションの詳細については、「 ロケーションの設定(P.15-1) 」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「 クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミSSION制御 」を参照してください。
[AAR グループ(AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング(AAR)グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし(None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 66-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ネットワークロケール(Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワークロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワークロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワークロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワークロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワークロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Managerがこのメディアエンドポイントに対して信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト(Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ(Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン(On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用(Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディアリソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>

表 66-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>着信側デバイスは、そのデバイスの送信側デバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信 Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が端末側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[発信者 ID を有効化 (Enable Caller ID)] (FXS ポートの場合)	<p>このポートで発信者 ID を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。発信者 ID を使用すると、ポートから発信者 ID 情報をレポートして、着信コールが到達したときに発信先の電話機にその情報を表示できます。</p>
[呼び出し番号 (Ring Number)] (FXS ポートの場合)	<p>呼び出し音が何回鳴ったらポートが着信コールに応答するかを入力します。有効な値は呼び出し音 1 回または 2 回です。デフォルト値は呼び出し音 1 回です。</p>
[タイミングガードアウト (Timing Guard-out)]	<p>タイミング ガードアウト値をミリ秒単位で入力します。この設定値は、コールが切断された後、発信コールが許可されない期間を示します。有効な値の範囲は 300 ~ 3000 ms です。デフォルト値は 1000 ms です。発信者 ID をサポートするには、1000 ms 以下の値にする必要があります。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非スル パーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した発呼側トランスフォーメーション CSS が使用されます。</p> <p>この設定値は FXS ポートで表示され、FXO ポートでは表示されません。</p>

表 66-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [なし (None)] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。 ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。 ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 • [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 • [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 (注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。
[ポート情報 (Port Information)] (POTS)	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound] : 着信コールのみの場合に使用します。 • [Outbound] : 発信コールに使用します • [Bothways] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[プレフィックス DN (Prefix DN) (FXS ポート)]	このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、まず、[桁数 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。 国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。

表 66-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[桁数 (Num Digits)] (FXS ポート)	収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。 このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。
[必要な桁数 (Expected Digits)] (FXS ポート)	トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)]	ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。 [SMDI ポート番号 (SMDI Port Number、0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。 (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。 このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。 [システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。 設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。 論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。

表 66-6 FXS/FXO ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし(None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム(System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックス フィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。
[削除桁数 (Strip Digits)]	<p>削除対象の先行する発呼側番号桁数を入力します。この値は、ポートの [プレフィックス (Prefix)] の設定値に応じて、デバイスのデバイス プール設定値またはサービス パラメータ Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - MGCP のいずれかで設定することもできます。</p> <p>サービス パラメータ Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - MGCP で桁数を削除するには、<i>prefix:stripdigits</i> という形式で値を入力します。<i>prefix</i> は先頭に付加する数字で、<i>stripdigits</i> は削除する桁数です。</p>
[プレフィックス (Prefix)]	削除した発呼側番号の先頭に付加する数字を入力します。 Default と入力すると、デバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] の設定値から [削除桁数 (Strip Digits)] および [プレフィックス (Prefix)] の値が設定されます。デバイス プールの [プレフィックス (Prefix)] の設定値も [デフォルト (Default)] に設定している場合は、サービス パラメータ Incoming Calling Party Unknown Number Prefix - MGCP から [削除桁数 (Strip Digits)] および [プレフィックス (Prefix)] の値が設定されます。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、発呼側番号トランスフォーメーションの実行に使用する Calling Search Space (CSS; コーリングサーチスペース) を選択します。この設定値は、[デバイスプールCSSの使用 (Use Device Pool CSS)] フィールドの値で上書きできます。
[デバイスプールCSSの使用 (Use Device Pool CSS)]	デバイス プールの [不明な番号 (Unknown Number)] の CSS を使用して発呼側番号トランスフォーメーションを実行するには、このチェックボックスをオンにします。このボックスをオフにすると、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] フィールドの設定値が使用されます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

デジタル アクセス PRI ポートの設定値

表 66-7 では、デジタル アクセス PRI ポートの設定値について詳しく説明します。



(注) 使用しているゲートウェイが QSIG プロトコルをサポートしているかどうかを確認するには、ゲートウェイの製品マニュアルを参照してください。Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報(Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
[MAC アドレス (MAC Address)]	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフ ネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オン ネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイド サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オン ネット (OnNet)] か、または [オフ ネット (OffNet)] かが決定します。 このフィールドは、コールが [オン ネット (OnNet)] または [オフ ネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ネットワークロケール(Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>(注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
[パケットキャプチャモード(Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間(Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[メディアリソースグループリスト(Media Resource Group List)]	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。</p>
[ロケーション(Location)]	<p>ロケーションは、コールアドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム(System)] > [ロケーション(Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御」を参照してください。</p>
[AARグループ(AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし(None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[ロード情報(Load Information)]	<p>ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVP Agent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVP Agent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVP Agent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>
[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウンリストで、ポートのルート クラス シグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは Route Class Signaling サービス パラメータの設定値を使用します。 • [オフ (Off)] : この値は、ルート クラス シグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 • [オン (On)] : この値は、ルート クラス シグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 <p>ルート クラス シグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを決定します。</p> <p>送信側デバイスでは、このチェックボックスをオンにすると、デバイスに対するデバイス プールのユーザ ロケール設定が着信側電話機のユーザ ロケールと一致する場合、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側デバイスは、着信 Unicode 文字を、送信側デバイスが属するデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて変換します。ユーザ ロケール設定が終端側の電話機のユーザ ロケールに一致した場合、電話機には文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で設定されたユーザ ロケールが同じ言語グループに属していない場合、電話機には不適切な文字が表示されることがあります。</p>
[V150 (サブセット) (V150 (subset))]	<p>V.150 (サブセット) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
[MLPP 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できないことに注意してください。使用可能な場合、この設定は、進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)]	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>T1 PRI スパンには、通信事業者またはスイッチに応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> [PRI 4ESS] : AT&T 長距離電話会社。 [PRI 5E8]:NI-1 モードまたはカスタム モードで動作する AT&T ファミリー 5ESS ISDN スイッチ。 [PRI 5E8 Custom] : Cisco Unified IP Phone。 [PRI 5E9] : AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 [PRI DMS] : MCI ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者、カナダ ローカル交換通信事業者。 [PRI ETSI SC] : T1 のヨーロッパ ローカル交換通信事業者。また、日本、台湾、韓国、香港のローカル交換。 [PRI NI2] : AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 <p>(注) [PRI NI2] の PRI プロトコル タイプを指定する場合は、次のコマンドで Cisco IOS ゲートウェイを設定してください。</p> <pre>isdn switch-type primary-ni</pre> <ul style="list-style-type: none"> [PRI NTT] : 日本の NTT 交換スイッチ。 [PRI ISO QSIG T1] : ISO QSIG を使用する PBX T1 専用トランク。 [PRI ISO QSIG E1] : ISO QSIG を使用する PBX E1 専用トランク。 <p>接続先のスイッチおよび推奨プロトコルを、次のように判別してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Nortel Meridian : DMS、5E8 Custom Lucent Definity : 4ESS または 5E8 Madge (Teleos) box : 5E8 Teleos Intecom PBX : 5E8 Intecom

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[QSIG バリエーション (QSIG Variant)]	<p>[QSIG バリエーション (QSIG Variant)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、アウトバウンド QSIG ファシリティの情報要素で送信されるプロトコル プロファイルを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。別途、シスコのサポート エンジニアからの指示がない限り、このパラメータはデフォルト値のままにしておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません --] • [ECMA] : [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] が [ECMA] (プロトコルプロファイル 0x91) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Global Value (ECMA)] に設定されていることを確認してください。 • [ISO] : (デフォルト) [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] が [ISO] (プロトコルプロファイル 0x9F) に設定されている場合、ASN.1 Rose OID Encoding サービス パラメータが [Use Local Value] または [Use Global Value (ISO)] のいずれかに設定されていることを確認してください。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [QSIG バリエーション (QSIG Variant)] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 22 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)]	<p>[ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] ドロップダウン リスト ボックスにオプションを表示するには、[トンネル化プロトコル (Tunneled Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスで [QSIG] を選択します。</p> <p>このパラメータは、遠隔操作サービス要素 (ROSE) 操作に対する Invoke Object ID (OID) を符号化する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Changes] • [-- 選択されていません --] • [Use Global Value (ISO)] : このオプションを選択するのは、接続先の PBX がローカル値をサポートしていない場合だけです。 • [Use Global Value (ECMA)] : このオプションを選択するのは、QSIG Variant サービス パラメータが、[ECMA] (プロトコル プロファイル 0x91) に設定されている場合だけです。 • [Use Local Value] : (デフォルト) このオプションはほとんどのテレフォニー システムでサポートされており、QSIG Variant サービス パラメータが [ISO] (プロトコル プロファイル 0x9F) に設定されている場合に使用します。 <p>詳細については、次の情報を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ASN.1 ROSE OID エンコーディング (ASN.1 ROSE OID Encoding)] は、クラスタワイド パラメータとしても定義できます。詳細については、第 22 章「サービス パラメータの設定」を参照してください。 • Cisco Unified Communications Manager での QSIG のサポートの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「IP テレフォニー プロトコルの概要」の章の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。
[プロトコル側 (Protocol Side)]	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両側で、反対の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続されているときに、その PBX が [プロトコル側 (Protocol Side)] として [ユーザ (User)] を使用する場合は、このデバイスには [ネットワーク (Network)] を選択してください。一般に、セントラル オフィス 接続では、このオプションに [ユーザ (User)] を使用します。</p>
[チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)]	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、[TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[TOP_DOWN] を選択してください。</p>
[チャンネル IE タイプ (Channel IE Type)]	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネル マップとして提示されるか、スロット マップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [タイムスロット番号 (Timeslot Number)] : B チャンネルの使用は、常に実際のタイムスロット マップ形式 (E1 の場合は 1-15 および 17-31 など)。 • [スロットマップ (Slotmap)] : B チャンネルの使用は、常にスロット マップ形式。 • [1B の場合に番号を使用 (Use Number When 1B)] : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルの場合はチャンネル マップ形式で、複数の B チャンネルが存在する場合はスロット マップ形式。 • [連続番号 (Continuous Number)] : E1 論理チャンネル番号として、連続しない実際のタイムスロット番号 (1-15 および 17-31) ではなく、連続するスロット番号 (1-30) を設定します。

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[PCM タイプ (PCM Type)]	デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [a-law] : ヨーロッパおよびその他の国で使用 (北米、香港、台湾、日本以外)。 [mu-law] : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の PRI スパンが使用可能であるときに、[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	再起動間の時間を入力します。[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合、PRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。
[PRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at PRI initialization)]	RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージは、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージも SERVICE メッセージも送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、ポートがイン サービスであると見なします。 このチェックボックスがオフになっている場合、D チャネルは、別の PRI の D チャネルと正常に接続されると、RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージを送信します。
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager の拡張サービス パラメータ (Change B-Channel Maintenance Status) を使用可能にできます。このサービス パラメータによって、MGCP T1/E1 PRI ゲートウェイのサービスから、リアルタイムで個々の B チャネルを使用することができます。 このチェックボックスをオフにすると、サービス パラメータ「Change B-Channel Maintenance Status」を使用不可にできます。 (注) デフォルトでは、このフィールドはオフです。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[G.Clear の有効化 (Enable G.Clear)]	MGCP T1 PRI ゲートウェイおよび SIP トランクに対する G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。G. Clear コーデックを有効にすると、発信コールに対するエコー キャンセレーションおよびゼロ抑止が無効になります。 (注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページの Fast Start オプションおよび Media Termination Point Required オプションは、機能しません。 クラスタ間の SIP トランク上で G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、SIP Clear Channel Data Route Class Label サービス パラメータおよび SIP Route Class Naming Authority サービス パラメータを設定する必要があります。 低帯域幅コーデック リージョンがある場合は、G. Clear Bandwidth Override サービス パラメータを有効にする必要があります。 次の機能は、G. Clear コーデックをサポートしていません。 <ul style="list-style-type: none"> T1 および E1 CAS H.323 クラスタ間トランク SCCP デバイス RSVP フレーム調整用の個々の DS-0 回線

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールルーティング情報 - インバウンドコール(Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または [すべて (All)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。[すべて (All)] を選択した場合、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>例 受信した数字は 123456 です。 有意な数字の設定値は 4 桁です。 変換された数字は 3456 です。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの設定値」 (P.41-1) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>このゲートウェイが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[桁数 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信コールで「許可された発呼者回線 ID」を送信するようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 16-8 を参照してください。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤル プラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤル プラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤル パターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリング プラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリング プランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリング プランが不明の場合に使用します。
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コール上で削除される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、削除される桁数が 3 である場合、Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を削除します。</p>
[発行者 ID DN (Caller ID DN)]	<p>発呼者回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードとともにこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードとともにこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。 このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。
[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)]	この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 (注) [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] が使用されます。
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。
[PRI プロトコルタイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]	
[IE 配信を表示 (Display IE Delivery)]	発信側と接続された側の名前 デリバリ サービスに対する SETUP および NOTIFY メッセージ (DMS プロトコルの場合) 内で、表示情報要素 (IE) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。 最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。 ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号IE配信のリダイレクト-インバウンド(Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UIIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p>
[IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)]	<p>Display IE フィールドに特殊先行文字バイト (ASCII 以外の表示不能なバイト) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Display IE フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスが適用されるのは、DMS-100 プロトコルと DMS-250 プロトコルに限られます。</p> <p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p>
[非 ISDN プログレスインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンドリングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>
[MCDN チャネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)]	<p>チャネル番号拡張ビットを 0 に設定するには、チェックボックスをオンにします。この拡張ビットを 1 に設定するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定は、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>
[ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name In Facility IE)]	<p>Facility IE フィールドにある発信側の名前を送信するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager では、デフォルトでこのチェックボックスはオフです。</p> <p>この機能は、ISDN 発信側のネーム デリバリティ用に使用可能になっている PRI インターフェイスを持つプライベートネットワークに対して設定します。このチェックボックスがオンの場合、発信側の名前は SETUP または FACILITY メッセージの Facility IE に送られるため、名前を着信側のデバイス上に表示できます。</p> <p>この機能を設定できるのは、プライベートネットワーク内の PRI トランクだけです。PSTN に接続された PRI トランクには、この機能を設定しないでください。</p> <p>(注) このフィールドが適用されるのは、NI2 プロトコルに限られます。</p>
[インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)]	<p>インターフェイス識別子が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager では、デフォルトでこのチェックボックスはオフです。</p> <p>この設定値は、SETUP、CALL PROCEEDING、ALERTING、および CONNECT メッセージの Channel Identification 情報要素内で、デジタル アクセス ゲートウェイ用の DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)]	PBX プロバイダーから入手した値を入力します。 このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルに限られます。有効値の範囲は 0 ~ 255 です。
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation、QSIG インバウンドコール)]	Cisco Unified Communications Manager で、接続された側の電話番号を着信側の電話機に表示させるか、ブロックさせるかを選択します。 このフィールドは、QSIG プロトコルを使用しているゲートウェイだけに適用されます。ゲートウェイは、この設定を着信コールだけに適用します。 接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「許可された接続先回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示できるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が「制限された接続先回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示されるのをブロックする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。 このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 16-11 を参照してください。
[UUIE の設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用に使用されます。 PRI 4ESS の [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)] 値がこのゲートウェイに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。 デフォルト値は、オフです。
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティアクセスレベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	すべてのプレフィックスフィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号 (National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-7 デジタル アクセス PRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

デジタル アクセス T1 ポートの設定値

表 66-8 では、デジタル アクセス T1 ポートの設定値について詳しく説明します。

表 66-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値

フィールド	説明
[MAC アドレス (MAC Address)] (IOS 以外のゲートウェイ)	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
[ドメイン名 (Domain Name)]	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が生成した、MGCP デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
(注) MAC アドレスかドメイン名の、どちらか適用される方を入力してください。	
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (""), パーセント記号 (%), アンパサンド (&), バックスラッシュ (¥), または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフ ネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オン ネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイド サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オン ネット (OnNet)] か、または [オフ ネット (OffNet)] かが決定します。 このフィールドは、コールが [オン ネット (OnNet)] または [オフ ネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
[メディアリソース グループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode) (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)]	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

表 66-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[パケットキャプチャ時間(Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケットキャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリングサーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。 Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「 コーリング サーチ スペースの設定値 」(P.41-1) を参照)。 (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
[ロケーション (Location)]	ロケーションは、コールアドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの Availability を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。 ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。 ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。 新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。 ロケーションの詳細については、「 ロケーションの設定 」(P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコールアドミッション制御 」を参照してください。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスに関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<なし (None)>] のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。

表 66-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[MLPP 表示 (MLPP Indication)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。使用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生するデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP 表示 (MLPP Indication)] の設定値を引き継ぎます。 [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 [オン (On)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は、一部のデバイスでは使用できません。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : このデバイスは、デバイス プールから [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] の設定値を引き継ぎます。 [無効 (Disabled)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにしません。 [強制 (Forceful)] : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p>(注) [MLPP 表示 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定し、かつ [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
[G. Clear の有効化 (Enable G. Clear)]	<p>MGCP T1 PRI ゲートウェイおよび SIP トランクに対する G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。G. Clear コーデックを有効にすると、発信コールに対するエコー キャンセレーションおよびゼロ抑止が無効になります。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページの Fast Start オプションおよび Media Termination Point Required オプションは、機能しません。</p> <p>クラスタ間の SIP トランク上で G. Clear コーデックのサポートを有効にするには、SIP Clear Channel Data Route Class Label サービス パラメータおよび SIP Route Class Naming Authority サービス パラメータを設定する必要があります。</p> <p>低帯域幅コーデック レージョンがある場合は、G. Clear Bandwidth Override サービス パラメータを有効にする必要があります。</p> <p>次の機能は、G. Clear コーデックをサポートしていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> T1 および E1 CAS H.323 クラスタ間トランク SCCP デバイス RSVP フレーム調整用の個々の DS-0 回線

表 66-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[DTMF 優先シグナルを処理(Handle DTMF Precedence Signals)]	このゲートウェイが特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[ボイスルートクラスの符号化(Encode Voice Route Class)]	ボイス コールはボイス ルート クラスを符号化するには、このチェックボックスをオンにします。ボイスはデフォルトのルート クラスであるため、通常は明示的な符号化は必要ありません。無効 (デフォルト設定) の場合、ポートではボイス ルート クラスが明示的に符号化されません。ボイス ルート クラス (明示的に符号化されているかどうかに関係なく) は、ダウンストリーム デバイスでコールをボイスとして識別するために使用できます。 このパラメータは MGCP T1/CAS ゲートウェイ ポートで使用可能です。
[ロード情報(Load Information)]	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力された値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	チャネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。 有効な入力値には、[上から (Top Down)] または [下から (Bottom Up)] があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[上から (Top Down)] を選択してください。
[送信番号 (Digit Sending)]	アウトダイヤル用に、次の送信番号タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [DTMF] : Dual-Tone Multifrequency (2 重トーン多重周波数)。通常のプッシュホン式ダイヤリング。 [MF] : Multifrequency (多重周波数)。 [PULSE] : パルス (ロータリー) ダイヤリング。
[ネットワークロケール(Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。 (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールだけを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。
[SMDI 基本ポート (SMDI Base Port)]	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。 このパラメータをゼロ以外の値に設定した場合、このゲートウェイが不明なタイプのルート リストまたはルート グループに属しているときは、このスパンを越えるハントは続行されません。

表 66-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた MTP またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVPAgent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVPAgent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVPAgent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク仮想化および信頼できるリレーポイントの詳細な説明については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレー ポイント」の項、およびそのサブトピックを参照してください。</p>
[ルートクラスシグナリングを使う (Route Class Signaling Enabled)]	<p>ドロップダウンリストで、ポートのルート クラス シグナリングを有効または無効にします。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは Route Class Signaling サービス パラメータの設定値を使用します。 [オフ (Off)] : この値は、ルート クラス シグナリングを有効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 [オン (On)] : この値は、ルート クラス シグナリングを無効にする場合に選択します。この設定は、Route Class Signaling サービス パラメータよりも優先されます。 <p>ルート クラス シグナリングによって、受信側デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。ポートでホットライン機能をサポートできるようにするには、この設定を有効にする必要があります。</p>
[V150 (サブセット)(V150 (subset))]	<p>V.150 (サブセット) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>

表 66-8 デジタル アクセス T1 ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>
[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]	
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、未指定の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p>[<なし (None)>] 設定のままにすると、このデバイスには位置情報フィルタが適用されません。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報フィルタの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報フィルタについて」および「位置情報フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報フィルタの使用法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

BRI ポートの設定値

表 66-9 では、BRI ポートの設定値について詳しく説明します。

表 66-9 BRI ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)] (MGCP ゲートウェイ)	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 BRI/S1/SU0/P0@SC3640.cisco.com S1 はスロット 1、SU0 はサブユニット 0、P0 はポート 0 を示し、@SC3640.cisco.com は MGCP ドメイン名を示します。
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できませんが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 このデバイスに対して、デバイス プールは、デバイスの自動登録用の Communications Manager グループ、日時グループ、地域、およびコーリング サーチ スペースを含むプロパティの集合を指定します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このゲートウェイで使用する共通デバイスの設定を選択します。共通デバイスの設定では、ソフトキー テンプレート、MOH、および MLPP の設定を決定します。
[コールの分類 (Call Classification)]	このパラメータは、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク上にない ([オフ ネット (OffNet)]) と見なされるか、ある ([オン ネット (OnNet)]) と見なされるかを示します。 [コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] に設定されている場合、Cisco Unified Communications Manager クラスタワイド サービス パラメータ Call Classification の設定値により、ゲートウェイが [オン ネット (OnNet)] か、または [オフ ネット (OffNet)] かが決定します。 このフィールドは、コールが [オン ネット (OnNet)] または [オフ ネット (OffNet)] の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
[ネットワークロケール (Network Locale)]	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、保留音サーバを選択します。
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、コール アドミッション制御 (CAC) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオのAvailabilityを調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定」(P.15-1) を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[インターフェイス情報 (Interface Information)]	
[BRI プロトコルタイプ (BRI Protocol Type)]	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p style="text-align: center;">BRI-NET3</p>
[プロトコル側 (Protocol Side)]	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p>(注) BRI はユーザ側だけをサポートします。</p>
[チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)]	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、[TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、[TOP_DOWN] を選択してください。</p>
[PCM タイプ (PCM Type)]	<p>デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [a-law] : ヨーロッパおよびその他の国で使用 (北米、香港、台湾、日本以外)。 • [mu-law] : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
[最初のリスタートの遅延 (Delay for first restart、1/8 秒単位)]	スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の BRI スパンが使用可能であるときに、[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)] チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをインサービスにするには、2 秒待ってください)。
[リスタート間遅延 (Delay between restarts、1/8 秒単位)]	再起動間の時間を入力します。[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)] チェックボックスがオフになっている場合、BRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[BRI 初期化でリスタートを制限 (Inhibit restarts at BRI initialization)]	<p>RESTART メッセージは、BRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージが送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、データ リンクは、別の BRI データ リンクと正常に接続されると、RESTART メッセージを送信します。</p>
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	<p>Debug ウィンドウに B チャンネルの状況を表示するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[最初のコールでデータリンクを有効化 (Enable Datalink on First Call)]	<p>ゲートウェイが Cisco Unified Communications Manager に登録されると、Cisco Unified Communications Manager はゲートウェイへのデータ リンクを確立します。</p> <p>最初のコールで Terminal Endpoint Identifier (TEI; 終端識別子) が決まるようにゲートウェイおよびスイッチを設定する場合、チェックボックスをオンにすると、最初のコールでデータ リンクを確立できます。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>
[コールルーティング情報 - インバウンドコール (Call Routing Information - Inbound Calls)]	
[有意な数字 (Significant Digits)]	<p>収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択するか、または [すべて (All)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。[すべて (All)] を選択した場合、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>例 受信した数字は 123456 です。 有意な数字の設定値は 4 桁です。 変換された数字は 3456 です。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、BRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN(Prefix DN)] を参照してください。</p>
[コーリング検索スペース (Calling Search Space)]	<p>適切なコーリング検索スペースを選択します。コーリング検索スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p>
[AAR コーリング検索スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング検索スペースを選択します。AAR コーリング検索スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[プレフィックス DN(Prefix DN)]	<p>このゲートウェイが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、まず、[桁数 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>このフィールドには、国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。</p>

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コールルーティング情報 - アウトバウンドコール(Call Routing Information - Outbound Calls)]	
[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイス上で着信側番号をローカライズできます。選択する着信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる着信側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>(注) [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[デバイスプールの着信側トランスフォーメーション CSSを使用 (Use Device Pool Called Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている着信側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [着信側トランスフォーメーション CSS(Called Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>
[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定を使用すると、デバイスの発呼側番号をローカライズできます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。[発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)] は、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p>
[位置情報 (Geolocation)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスが位置情報に関連付けられていないことを示す、<i>未指定</i>の位置情報を選択できます。</p> <p>[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p> <p>設定の詳細など、位置情報の説明については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「位置情報およびロケーション伝達」の章の「位置情報について」および「位置情報の設定」を参照してください。</p> <p>論理パーティションによる位置情報の使用方法の概要および詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「論理パーティション」を参照してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられたデバイス プールに設定されている発呼側トランスフォーメーション CSS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにした場合、デバイスでは、PRI ポートの [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定した [発呼側トランスフォーメーション CSS(Calling Party Transformation CSS)] が使用されます。</p>

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>発信側の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信者 ID を送信しない場合は、[非許可 (Restricted)] を送信します。</p>
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。
[着信側 IE 番号タイプが不明 (Called Party IE Number Type Unknown)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が、電話番号のタイプを設定します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側 IE 番号タイプが不明 (Calling Party IE Number Type Unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が、電話番号のタイプを設定します。 • [国際(International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内(National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明(Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [加入者(Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[着信番号計画 (Called Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準(National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知(Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明(Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [加入者(Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準(National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知(Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明(Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [加入者(Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[削除桁数 (Number of digits to strip)]	<p>発信コール上で削除される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、削除される桁数が 3 である場合、Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を削除します。</p>
[発信者 ID DN(Caller ID DN)]	<p>発信者 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードとともにこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードとともにこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>
[着信発呼者の設定 (Incoming Calling Party Settings)]	
[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)]	<p>すべての発呼側番号タイプのプレフィックスをすべて削除するには、[プレフィックス設定のクリア (Clear Prefix Settings)] をクリックします。</p>
[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)]	<p>すべてのプレフィックスフィールドに対してデフォルト値を同時に入力するには、[デフォルトプレフィックス設定 (Default Prefix Settings)] をクリックします。</p>

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国内番号(National Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国内 (National)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国内 (National)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国内 (National)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 • [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国内番号 (National Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 • [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国内 (National)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択するコーリング サーチ スペースに、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーションパターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[国際番号 (International Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [国際 (International)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [国際 (International)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。プレフィックスを入力する代わりに、Default という文字を入力することもできます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [国際 (International)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [国際番号 (International Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [国際 (International)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[加入者番号 (Subscriber Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] の値として [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次のフィールドを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [加入者 (Subscriber)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [加入者 (Subscriber)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [加入者番号 (Subscriber Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [加入者 (Subscriber)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[不明な番号 (Unknown Number)]	<p>[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号をグローバル化するには、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> [プレフィックス (Prefix)] : Cisco Unified Communications Manager は、[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)] に [不明 (Unknown)] を使用する発呼側番号に、このフィールドに入力されたプレフィックスを適用します。8 文字まで入力でき、数字、国際的なエスケープ文字 (+)、アスタリスク (*)、またはシャープ記号 (#) を含めることができます。 <p>[プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default と表示された場合、[削除桁数 (Strip Digits)] フィールドを設定できません。この場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイスに適用されるデバイス プールから [プレフィックス (Prefix)] フィールドおよび [削除桁数 (Strip Digits)] フィールドの設定を取得します。[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)] ウィンドウの [プレフィックス (Prefix)] フィールドに Default という文字が表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は、サービス パラメータ設定を着信発呼者のプレフィックスに適用します。これはプレフィックスと削除桁数の両方の機能をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> [削除桁数 (Strip Digits)] : Cisco Unified Communications Manager でプレフィックスが適用される前に [不明 (Unknown)] タイプの発呼側番号から削除する桁数 (最大 24) を入力します。 [デバイスプール CSS の使用 (Use Device Pool CSS)] : デバイスに適用されるデバイス プールで設定された [不明な番号 (Unknown Number)] フィールドのコーリング サーチ スペースを使用するには、このチェックボックスをオンにします。 [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] : この設定を使用すると、デバイスで [不明 (Unknown)] 発呼側番号タイプの発呼側番号をグローバル化できます。選択する発呼側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーション パターンが含まれていることを確認してください。 <p>コールが発信される前に、デバイスは番号分析を使用してトランスフォーメーションを適用する必要があります。CSS を [なし (None)] に設定すると、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。発呼側トランスフォーメーション パターンは、必ず、ルーティングに使用されない非ヌルパーティションに設定してください。</p> <p>ヒント これらを設定する方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービスガイド』の「[デバイスプール設定 (Device Pool Configuration)]、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]、または [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウでの着信コール発信側の設定」を参照してください。</p>
[BRI プロトコルタイプ固有情報 (BRI Protocol Type Specific Information)]	
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コールが自動転送された場合にコールの最初の転送番号と転送理由を示すには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>最初の転送番号と転送理由を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>

表 66-9 BRI ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト-インバウンド(Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>Cisco Unified Communications Manager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします (Redirecting Number IE は、SETUP メッセージの UUIE 部分に含まれます)。</p> <p>Redirecting Number IE を除外するには、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合だけで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
[非 ISDN プログレッシングインジケータ IE を有効に設定 (Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフ) になっています。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco Unified Communications Manager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンドリングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

POTS ポートの設定値

表 66-10 では、POTS ポートの設定値について説明します。

表 66-10 POTS ポートの設定値

フィールド	説明
[ポート選択 (Port Selection)]	
[ポートタイプ (Port Type)]	POTS ポートの場合、このフィールドには「POTS」が表示されます。

表 66-10 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 • 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートの詳細 (Port Details)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Inbound] : 着信コールのみの場合に使用します。 • [Outbound] : 発信コールに使用します • [Bothways] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[Audio Signal Adjustment into IP Network]	ポート アプリケーション タイプに関連した受信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。 (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。
[Audio Signal Adjustment from IP Network]	ポート アプリケーション タイプに関連した送信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。 (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	このゲートウェイが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。 国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。
[桁数 (Num Digits)]	収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。 このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN (Prefix DN)] を参照してください。
[必要な桁数 (Expected Digits)]	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
[Call Restart Timer (1000-5000 ms)]	Call Restart Timer (1000 ~ 5000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Offhook Validation Timer (100-1000ms)]	Offhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[Onhook Validation Timer (100-1000ms)]	Onhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。

表 66-10 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[Hookflash Timer (100 - 1500 ms)]	Hookflash Timer (100 ~ 1500ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
[SMDI ポート番号 (SMDI Port Number, 0-4096)]	ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。 [SMDI ポート番号 (SMDI Port Number, 0-4096)] は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。 (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致する必要があります。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

ループ スタート ポートの設定値

表 66-11 では、ループ スタート ポートの設定値について説明します。

表 66-11 ループ スタート ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Loop Start] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]	[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なポート全部であるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。
[終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 1 つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。

表 66-11 ループスタート ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポートディレクション(Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールのみの場合に使用します。 [Outbound] : 発信コールに使用します [Both Ways] : 着信コールと発信コールに使用します。
[アテンダント DN(Attendant DN)]	着信コールを転送する先の電話番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

グラウンドスタート ポートの設定値

表 66-12 では、グラウンドスタート ポートの設定値について説明します。

表 66-12 グラウンドスタート ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]	[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。
[終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。

表 66-12 グラウンドスタート ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールのみの場合に使用します。 [Outbound] : 発信コールに使用します [Both Ways] : 着信コールと発信コールに使用します。
[アテンダント DN (Attendant DN)]	着信コールをルーティングする先の番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイス上の不在ポートを示すには、このチェックボックスをオンにします。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。 詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

E & M ポートの設定値

Ear and Mouth (E & M) ポートは、PBX トランク回線 (専用回線) の接続を可能にします。E & M は、2 線式、4 線式、および 6 線式の電話機とトランクのインターフェイス用のシグナリング技術です。

表 66-13 では、E & M ポートの設定値について説明します。

表 66-13 E & M ポートの設定値

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[EANDM] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]	[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なすべてのポートであるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。
[終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<ul style="list-style-type: none"> ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] と [終了ポート番号 (Ending Port Number)] に適切な値を選択します。 1 つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同じ番号を選択します。 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方に [すべてのポート (All Ports)] を選択します。

表 66-13 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[ポートの詳細 (Port Details)]	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [Inbound] : 着信コールのみの場合に使用します。 [Outbound] : 発信コールに使用します [Both Ways] : 着信コールと発信コールに使用します。
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : 転送デバイスの電話番号を送信します。 [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最初のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、最後のリダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。
[発信者 ID タイプ (Caller ID Type)]	発信者 ID のタイプとして次のどちらかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [ANI] : このタイプは、発信者 ID のタイプとして Asynchronous Network Interface (ANI) を使用する場合に選択します。 [DNIS] : このタイプは、発信者 ID のタイプとして Dialed Number Identification Service (DNIS) を使用する場合に選択します。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	発呼者回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。 たとえば、北米では次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードとともにこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードとともにこの番号を追加します。 <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p>
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco Unified Communications Manager は、まず、[桁数 (Num Digits)] 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。 国際的なエスケープ文字 + を入力することができます。
[桁数 (Num Digits)]	収集する有意な数字の桁数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。 このフィールドは、[有意な数字 (Significant Digits)] チェックボックスがオンである場合に使用します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。[プレフィックス DN (Prefix DN)] および [有意な数字 (Significant Digits)] を参照してください。
[必要な桁数 (Expected Digits)]	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。

表 66-13 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右にある [?] 情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイのマニュアルを参照するか、製造元に連絡してください。</p>

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加

Cisco Unified Communications Manager でネットワーク内の IP テレフォニー ゲートウェイを管理するには、まず、各ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager 設定データベースに追加する必要があります。ゲートウェイを追加する場合の手順、ウィンドウ、および設定値は、追加するゲートウェイのモデルによって異なります。

Cisco Unified Communications Manager に新しいゲートウェイを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、追加するゲートウェイ タイプを選択します。選択したゲートウェイ タイプによっては、[デバイスプロトコル (Device Protocol)] フィールドが自動的に表示されます。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** 表 66-14 では、設定するゲートウェイ タイプに固有の手順をクリックします。正しい手順を選択した後、目的のゲートウェイのタイプに該当する設定値を入力するステップから始めます。

表 66-14 ゲートウェイ

ゲートウェイのタイプ	タイプ別の追加手順
Cisco Voice Gateway 200 (VG200) VG224 Gateway Cisco IOS 269X、26XX、362X、364X、366X、 3725、3745 ゲートウェイ Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch Communication Media Module Cisco IAD2400	「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」(P.66-82)
Cisco IOS 269X、3725、3745 ゲートウェイ Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway	「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加」(P.66-88) 「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」(P.66-89)
H.323 モードで設定されたその他の Cisco IOS ゲートウェイ	「Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加」(P.66-90)
Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway	「Analog Access ゲートウェイとポートの追加」(P.66-91)
Cisco VG248 Gateway	「Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加」(P.66-92)

Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加し、設定する手順を、次に示します。MGCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco VG200 Voice Gateway
- VG224 Gateway
- Cisco IOS 362x、364x、366x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注) 他の IOS MGCP ゲートウェイと同様に、MRP/ASI ゲートウェイは 3 つの Cisco Unified Communications Manager が含まれた Cisco Unified Communications Manager グループと連携して動作します。しかし、ASI/MRP ゲートウェイのテストは、1 台のバックアップ Cisco Unified Communications Manager だけを使用して実行されます。

始める前に

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager と連携して使用するよう設定するには、事前に Cisco IOS Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの MGCP ゲートウェイを選択します。
- Cisco VG200
 - VG224
 - Cisco 362X、364X、366X
 - Cisco 3725 および 3745
 - Cisco 26XX および 269X
 - Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845
 - Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
 - Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
 - Communication Media Module
 - Cisco IAD2400



(注) Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイも MGCP をサポートしていますが、設定が異なります。[「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」\(P.66-89\)](#) を参照してください。

Cisco IOS MGCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、異なるデバイス プロトコルをサポートします。後続の Web ウィンドウには、これらのインターフェイスの設定が表示されます。

- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスが表示された場合は、[MGCP] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。表示されない場合は、[ステップ 6](#) に進みます。
- ステップ 6** 適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します ([「MGCP ゲートウェイの設定値」\(P.66-3\)](#) を参照)。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。
- 選択項目は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットに取り付けられている VIC のタイプを選択し、[保存(Save)] をクリックします。
- ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。
- ステップ 9** エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加します。
- 詳細については、次の手順を参照してください。
- 「MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加」(P.66-84)
 - 「MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加」(P.66-86)
 - 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加」(P.66-87)
 - 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加」(P.66-87)
 - 「MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加」(P.66-88)
- ステップ 10** [リセット(Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。
- ステップ 12** エンドポイントの設定とポートの追加が終了した後、MGCP ゲートウェイ デバイスをルート グループまたはルート リストに追加するか、ルート パターンをゲートウェイに割り当てて、コールがゲートウェイにルーティングされるようにする必要があります。



(注) MGCP ゲートウェイをルート パターンに追加する必要があるのは、発信コールの場合だけです。

MGCP ゲートウェイへのポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイス カードのタイプによって異なります。ここでは、次の内容について説明します。

- 「MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加」(P.66-84)
- 「MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加」(P.66-86)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加」(P.66-87)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加」(P.66-87)
- 「MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加」(P.66-88)



MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、任意の POTS デバイスとの接続に使用できます。MGCP ゲートウェイで FXS ポートを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」(P.66-82) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。または、FXS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** FXS ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント ID をクリックします。
- ウィンドウの内容が更新され、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [デバイス情報 (Device Information)] と [ポート情報 (Port Information)] に、適切な設定値を入力します。これらのフィールドの詳細については、次の各項を参照してください。
- 「FXS/FXO ポートの設定値」 (P.66-32)
 - 「POTS ポートの設定値」 (P.66-75)
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- 
- (注)** POTS ポートを追加した後、ウィンドウが更新され、ウィンドウの下部にその POTS ポートの情報が表示されます。新しいポートの下に [新規 DN を追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
- ステップ 7** [新規 DN を追加 (Add a new DN)] をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合は、[ステップ 9](#) に進んでください。
- 
- (注)** DN の追加と設定については、「[電話番号の設定値](#)」 (P.43-1) を参照してください。
- ステップ 8** ポートを追加した MGCP ゲートウェイのゲートウェイ設定ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 9** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 10** [ステップ 4](#) ~ [ステップ 8](#) を繰り返して、他の FXS ポートを追加します。

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.66-95) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX との接続に使用できません。MGCP ゲートウェイ上で、ループ スタートまたはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager は、すべてのループ スタート トランクには、Positive Disconnect Supervision (確実な接続解除監視) がないものと想定します。Cisco Unified Communications Manager サーバのフェールオーバー時にアクティブ コールを保持できるように、確実な接続解除監視を備えたトランクを、グラウンド スタートとして設定してください。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」(P.66-82) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。または、FXO ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** FXO ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。検索結果が表示されます。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** MGCP 設定ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Ground Start] か [Loop Start] のどちらかを選択します。



(注) VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント ID に同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

- ステップ 6** 次の各項の説明に従って、適切な [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] および [ポート情報 (Port Information)] の設定値を入力します。
 - 「[FXS/FXO ポートの設定値](#)」(P.66-32)
 - 「[ループ スタート ポートの設定値](#)」(P.66-77)
 - 「[グラウンドスタート ポートの設定値](#)」(P.66-78)
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8** ポートを追加した MGCP ゲートウェイのゲートウェイ設定ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 9** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
- ステップ 10** 他の FXO ポートを追加するには、[ステップ 4](#)～[ステップ 7](#)を繰り返します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加

MGCP ゲートウェイにデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。または、T1-CAS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** デジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定するデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント ID をクリックします。
[デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リストボックスで、[デジタルアクセス T1(Digital Access T1)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
選択するポート タイプの適切な設定値については、「[ポートの設定値](#)」(P.66-32) を参照してください。
- ステップ 5** 適切なゲートウェイの設定値を入力します。詳細については、「[デジタル アクセス T1 ポートの設定値](#)」(P.66-58) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加

- ステップ 1** [ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示するには、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** T1 PRI または E1 PRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する T1 PRI または E1 PRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、「[デジタル アクセス PRI ポートの設定値](#)」(P.66-39) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイス カード (VIC) のタイプによって異なります。MGCP ゲートウェイに BRI ポートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示するには、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見つかっている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** BRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** MGCP 設定ウィンドウから、設定する BRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** BRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、「[BRI ポートの設定値](#)」(P.66-64) を参照してください。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS SCCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加し、設定する手順を、次に示します。SCCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco IOS 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco VG224 Gateway

始める前に

事前に Cisco Unified Communications Manager にゲートウェイを追加して、Cisco IOS SCCP ゲートウェイを設定します。続いて、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定します。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの SCCP ゲートウェイを選択します。
- Cisco IOS 269x
 - Cisco IOS 3725 および 3745
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウン リスト ボックスから、[SCCP] を選択します。
- Cisco IOS SCCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、SCCP をサポートします。後続の Web ウィンドウには、インターフェイスの設定が表示されます。
- ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックします。
- この SCCP ゲートウェイ用の [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します (「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」 (P.66-30) を参照)。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが含まれています。
- 選択項目は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。
- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットに取り付けられている VIC のタイプを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。
- ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。
- ステップ 9** エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加し、SCCP ゲートウェイに FXS/BRI ポートを追加します。アナログ電話機の設定の詳細については、「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.67-1) および「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」 (P.67-38) を参照してください。
- ステップ 10** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。
- ステップ 11** 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加

次の IOS 以外の Cisco MGCP ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。

- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のデジタル ゲートウェイのいずれかを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
 - Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway
- ステップ 4** ドロップダウン リスト ボックスから、選択したゲートウェイ上で設定するインターフェイスのタイプに適したデバイス プロトコルを選択します。選択可能な項目は、ゲートウェイのモデルに応じて異なります。
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway : [デジタルアクセス PRI(Digital Access PRI)] または [デジタルアクセス T1(Digital Access T1)] を選択します。
 - Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway : デジタル アクセス PRI デバイス プロトコルが自動的に選択され、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。 [ステップ 6](#) に進みます。
- ステップ 5** [次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** デジタル アクセス PRI インターフェイスを設定するか、デジタル アクセス T1 インターフェイスを設定するかに応じて、適切な設定値を入力します (次の各項を参照)。
- 「[デジタル アクセス PRI ポートの設定値](#)」 (P.66-39)
 - 「[デジタル アクセス T1 ポートの設定値](#)」 (P.66-58)
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8** Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway でデジタル アクセス T1 インターフェイスを設定する場合は、ウィンドウの左側に表示される [ポート (Ports)] ペインで、[新規ポートを追加 (Add a New Port)] リンクをクリックして、ポートを設定します。
[「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加」 \(P.66-87\)](#) を参照してください。
- ステップ 9** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」 (P.66-95) を参照してください。

Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する手順は、次のとおりです。



(注) ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に登録すると、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにゲートウェイ登録ステータスが不明と表示されることがあります。

始める前に

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager とともに使用するよう設定するには、事前に Cisco IOS コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。MGCP ゲートウェイと比較すると、H.323 ゲートウェイの方が、ゲートウェイでの設定が多くなります。これは、H.323 ゲートウェイが、ダイヤルプランとルートパターンを保持する必要があるためです。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
 - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[H.323 Gateway] を選択します。
 - ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 5** 適切な設定値を入力します (「[H.323 ゲートウェイの設定値](#)」(P.66-5) を参照)。
 - ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 7** [リセット (Reset)] をクリックして、ゲートウェイをリセットし、変更内容を適用します。
-

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

Analog Access ゲートウェイとポートの追加

Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway のポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
 - ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway] を選択します。
 - ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** 適切な設定値を入力します（「[Analog Access ゲートウェイの設定値](#)」(P.66-24) を参照）。
- ステップ 6** [保存(Save)] をクリックします。
- ステップ 7** このゲートウェイにポートを追加するには、ウィンドウの左側に表示される [ポート (Ports)] ペインで、[新規ポートを追加 (Add a New Port)] リンクをクリックします。
[ポート設定 (Port Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 8** ドロップダウンリスト ボックスから、ポート タイプとして [POTS] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9** 適切なポートの設定値を入力します（「[POTS ポートの設定値](#)」(P.66-75) を参照）。
- ステップ 10** [保存(Save)] をクリックします。
POTS ポートを追加した場合、ウィンドウの内容が更新され、ウィンドウの左側に、その POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に、[DN を追加 (Add DN)] リンクが表示されます。
- ステップ 11** [DN を追加 (Add DN)] をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。
電話番号の追加と設定については、「[電話番号の設定値](#)」(P.43-1) を参照してください。
- ステップ 12** POTS ポートの追加と POTS ポートの電話番号の設定が完了したら、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに戻ります。[関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで、[デバイスの設定 (Configure Device)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 13** [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.66-95) を参照してください。

Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加

Cisco VG248 Analog Phone Gateway は、ラック取り付け型のスタンドアロン 48-FXS ポート製品です。このゲートウェイを使用すると、複数の構内アナログ電話機、FAX マシン、モデム、ボイス メッセージ システムやスピーカフォンを、1 つの Cisco Unified Communications Manager クラスタに登録することができます。

Cisco VG248 は、機能の拡張に備え、Skinny Client Control Protocol を使用して Cisco Unified Communications Manager に接続されます。

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco VG248 を「Cisco VG248 Gateway」と呼ばれるゲートウェイ デバイスとして認識します。さらに Cisco Unified Communications Manager は、48 個のポートを、それぞれ「Cisco VGC Phone」と呼ばれる Cisco Unified IP Phone に似た個別デバイスとして扱います。

Cisco VG248 Gateway を追加して、このゲートウェイにポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択して、[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウを表示します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。
[新規ゲートウェイを追加 (Add a new Gateway)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco VG248 Gateway] を選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切な設定値を入力します（「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」 (P.66-29) を参照）。
- ステップ 6** [設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] ドロップダウン リスト ボックスから、[48_PORTS] を選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
[設定済みのスロット、VIC およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)] 領域に、ポート 0 ~ 48 が表示されます。
- ステップ 8** 1 つのポートをクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに、Cisco VGCPPhone として電話機のモデルがリスト表示されます。[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、MAC アドレスが自動的に見えるようになります。
- ステップ 9** 適切な設定値を入力します（「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」 (P.67-38) を参照）。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 11** ポートの電話番号を設定するには、ウィンドウの左側の [割り当て情報 (Association Information)] 領域に表示される [新規 DN を追加 (Add a New DN)] リンクをクリックします。
[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。電話番号の追加と設定については、「電話番号の設定値」 (P.43-1) を参照してください。
- ステップ 12** ゲートウェイの別のポートを設定するには、[関連リンク (Related Link)] ドロップダウン リスト ボックスから [ゲートウェイに戻る (Back to Gateway)] リンクを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。別のポートについて電話機の設定値と電話番号を設定するには、**ステップ 8 ~ ステップ 11** を繰り返します。
ポート 1 を設定する場合は、[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウに [新しいポートをすべてポート 1 のように作成 (Create all new ports like port 1)] ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、ポート 1 と同じパラメータおよび設定値で、ポート 2 ~ 48 を設定できます（ただし、ポート 2 ~ 48 が設定されていない場合に限られます）。
- ステップ 13** [リセット (Reset)] をクリックして、変更内容を適用します。

追加情報

「関連項目」 (P.66-95) を参照してください。

ゲートウェイとポートの変更

Cisco Unified Communications Manager を使用して、ゲートウェイ タイプに関係なく、同様に次のタスクを実行します。

- 「ゲートウェイの同期化」 (P.66-94)
- 「ゲートウェイとポートの更新」 (P.66-94)

ゲートウェイの同期化

ゲートウェイを最新の設定変更と同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要な場合があります）。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するゲートウェイがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 同期させるゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
[設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
-

追加情報

「関連項目」(P.66-95) を参照してください。

ゲートウェイとポートの更新

Cisco Unified Communications Manager からゲートウェイの更新、またはゲートウェイ ポートの再設定を行う手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
検出されたデバイスが表示されます。
- ステップ 4** 更新するゲートウェイの [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切なゲートウェイまたはポートの設定値を更新します（次のトピックを参照）。
ゲートウェイ ポートにアクセスするには、そのゲートウェイ ポートのアイコンをクリックするか、選択されたゲートウェイの設定ウィンドウの左側にある MGCP エンドポイントのリンクをクリックします。
- 「MGCP ゲートウェイの設定値」(P.66-3)
 - 「FXS/FXO ポートの設定値」(P.66-32)

- 「デジタル アクセス PRI ポートの設定値」 (P.66-39)
- 「デジタル アクセス T1 ポートの設定値」 (P.66-58)
- 「Analog Access ゲートウェイの設定値」 (P.66-24)
- 「ポートの設定値」 (P.66-32)

ステップ 6 [保存(Save)] をクリックします。

ステップ 7 [リセット(Reset)] をクリックし、ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

追加情報

「関連項目」 (P.66-95) を参照してください。

関連項目

すべてのゲートウェイ タイプ

- 「Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイの追加」 (P.66-81)
- 「ゲートウェイの設定値」 (P.66-1)
- 「ゲートウェイとポートの変更」 (P.66-93)
- 「ゲートウェイの同期化」 (P.66-94)
- 「ゲートウェイとポートの更新」 (P.66-94)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「信頼済みリレー ポイント」
- 『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「ローカル ルート グループ」

IOS MGCP ゲートウェイ

- 「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」 (P.66-82)
- 「MGCP ゲートウェイの設定値」 (P.66-3)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「MGCP ゲートウェイ」

SCCP ゲートウェイ

- 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加」 (P.66-88)
- 「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」 (P.66-30)

IOS 以外の MGCP ゲートウェイ

- 「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」 (P.66-89)

H.323 ゲートウェイ

- 「Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加」 (P.66-90)
- 「H.323 ゲートウェイの設定値」 (P.66-5)

Analog Access ゲートウェイ

- 「Analog Access ゲートウェイとポートの追加」 (P.66-91)
- 「Analog Access ゲートウェイの設定値」 (P.66-24)

- 「Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加」 (P.66-92)
- 「Cisco VG248 ゲートウェイの設定値」 (P.66-29)
- 『Cisco VG248 Analog Phone Gateway Software Configuration Guide』

BRI ゲートウェイ

- 「BRI ポートの設定値」 (P.66-64)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「MGCP BRI コール接続」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「MGCP BRI ゲートウェイの設定チェックリスト」

ポート

- 「MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加」 (P.66-84)
- 「MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加」 (P.66-86)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス T1 ポートの追加」 (P.66-87)
- 「MGCP ゲートウェイへのデジタル アクセス PRI デバイスの追加」 (P.66-87)
- 「MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加」 (P.66-88)
- 「FXS/FXO ポートの設定値」 (P.66-32)
- 「デジタル アクセス PRI ポートの設定値」 (P.66-39)
- 「デジタル アクセス T1 ポートの設定値」 (P.66-58)
- 「POTS ポートの設定値」 (P.66-75)
- 「ループ スタート ポートの設定値」 (P.66-77)
- 「グラウンドスタート ポートの設定値」 (P.66-78)
- 「E & M ポートの設定値」 (P.66-79)

電話機と電話番号

- 「Cisco Unified IP Phone の設定」 (P.67-1)
- 「スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定」 (P.67-38)
- 「電話番号の設定」 (P.43-1)
- 「電話番号の設定値」 (P.43-1)